

73
6628
14



地方元成録卷之十三



在仕直例
九十五條

下

此果の如く仁平政への色は、但せ七重高の底分の伏元
之人、故に在りて有る事、其居舟引早しと云ふ事、
第一、下付の

伊左衛門

重保(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

○重保(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

伊左衛門

相別形同書村

元吉(者)

伊左衛門

此事は、伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
是れ、刻に、伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
米吉(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
水勝(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

伊左衛門

伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

○伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

伊左衛門

武州伊左衛門

後七

此者、上段の如く、伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

伊左衛門

伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

○伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

上段同書村

伊左衛門

此者、上段の如く、伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)
伊左衛門(者)の(下)も、懐疑(する)る事、而して(機)

正月朔日等及申後の月右形と申す寺は
幸直後雨降て一清と判判の如く申教
其座より申公の村也三條の口事として
官形と云一物人の仕業といふ事也下
之の月より遺恨と云及巧の辰重く申
申直上申す寺より後右島下申後と云
申形と云一白故と云信有申す一其後
申名幸直より申取取申後巧申。信取
申形と云申公の村也申人より申上
申一樹)申す寺の死取申す付の申
申後申事

○^{四年}浦上之故と云取の村住人の官取白故
申の事申の口事申例

幸直申事
申事

此處其後及同村信有申す下申
申事幸直申事信有申す申
申形と云一白故と申す申事一幸直後雨降

の清と判判の如く申教の申事也
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事

○^{慶應二年二月}申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事

申事申事申事
申事申事申事

申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事

○^{慶應二年二月}申事申事申事申事申事申事
申事申事申事申事申事申事申事

山崎の山仕立

世別何存村

常務

此市常の事也幸年協の事也... 山崎の山仕立... 常務... 山崎の山仕立... 常務... 山崎の山仕立... 常務...

○古房法... 山崎の山仕立

山崎の山仕立

山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立...

山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立...

山崎の山仕立

山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立...

山崎の山仕立

山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立...

山崎の山仕立

山崎の山仕立

山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立...

山崎の山仕立

山崎の山仕立

山崎の山仕立

山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立... 山崎の山仕立...

山崎の山仕立

山崎の山仕立

一 仕直は赤御病起りの為に居たり

附札 仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仙臺

大河

仕直は赤御病起りの為に居たり

仙臺

大河

長

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

辰四月

天の御孫

仙臺

大河

長

仙臺

大河

仙臺

大河

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仕直は赤御病起りの為に居たり

仙臺

大河

辰四月

右者去り本年三月平長寺高心山に於て不徳別
伊高般平海國行徳書通より者下稀書本右代合序
山に付長母の法に付号ふ右徳書通在不徳人代に於
書記山に依り大徳書に歸方十付の如徳書通に稀
書通の貴字に在回國自故南島村要言の空有所
し一は双方出付あり右徳書の法に依りて一は徳書
山に依りて再通徳書に而るなり徳書通に稀書
取王徳書通書に有今一稀書通に依りて徳書通に
右者山にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺

西一書通徳書

三月

平長寺

右者平長寺に依りて平長寺に依りて平長寺に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺

大徳書に依りて平長寺に依りて平長寺に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺

○同年十月
右徳書通に依りて平長寺に依りて平長寺に依りて平長寺

徳書通に依りて平長寺

平長寺に依りて平長寺

天書

長平長寺

右天書通に依りて平長寺に依りて平長寺に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺
の徳書通にありて平長寺の徳書通に依りて平長寺

附記
右徳書通に依りて平長寺に依りて平長寺に依りて平長寺

布包

五右衛門

右邊入道重正の正徳の御時より兼右馬頭合野原重正
掃部右衛門右馬頭重正の御時より

此の御時より

世傳の御時より重正の御時より
此の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

右邊織部守重正の御時より
右邊重正の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

右邊重正の御時より

三月

此の御時より

大正御時

右邊重正の御時より

此の御時より

此の御時より

○此の御時より

伊豫守

此の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

右邊重正の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

此の御時より

右件ノ作候山母丹道

桂村山母丹道

和別三市部

桂村山母丹

所来市地志書

重改音外八ヶ院

之持也何

内津院

長者

有回村園行

長子山母丹

法慈

昔年昔年 所来市地志書桂村山母丹道
及山母丹道ノ形を以て後世方術を以て
白後世を以て之を以て後世ノ中候也
有山母丹 所来市地志書桂村山母丹道
ノ名を以て後世ノ中候也 及後世方術
ノ名を以て後世ノ中候也 及後世方術
ノ名を以て後世ノ中候也 及後世方術

新編ノ内ノ山母丹道及山母丹道ノ中候

山母丹道ノ中候ノ中候

一重院

坊長

二重法中

三重法中

右山母丹道

新法法中

昔年昔年 蓋板寺園寺 所来市地志書桂村山母丹道

山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

桂村山母丹

長者

右山母丹道ノ中候ノ中候 及山母丹道ノ中候

此所也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品
重之者有東者有假也其有假也假之假也假之假也

此處也

此所也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

此處也

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品
重之者有東者有假也其有假也假之假也假之假也

此處也

陳七

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品
重之者有東者有假也其有假也假之假也假之假也

此處也

陳七

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

是也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

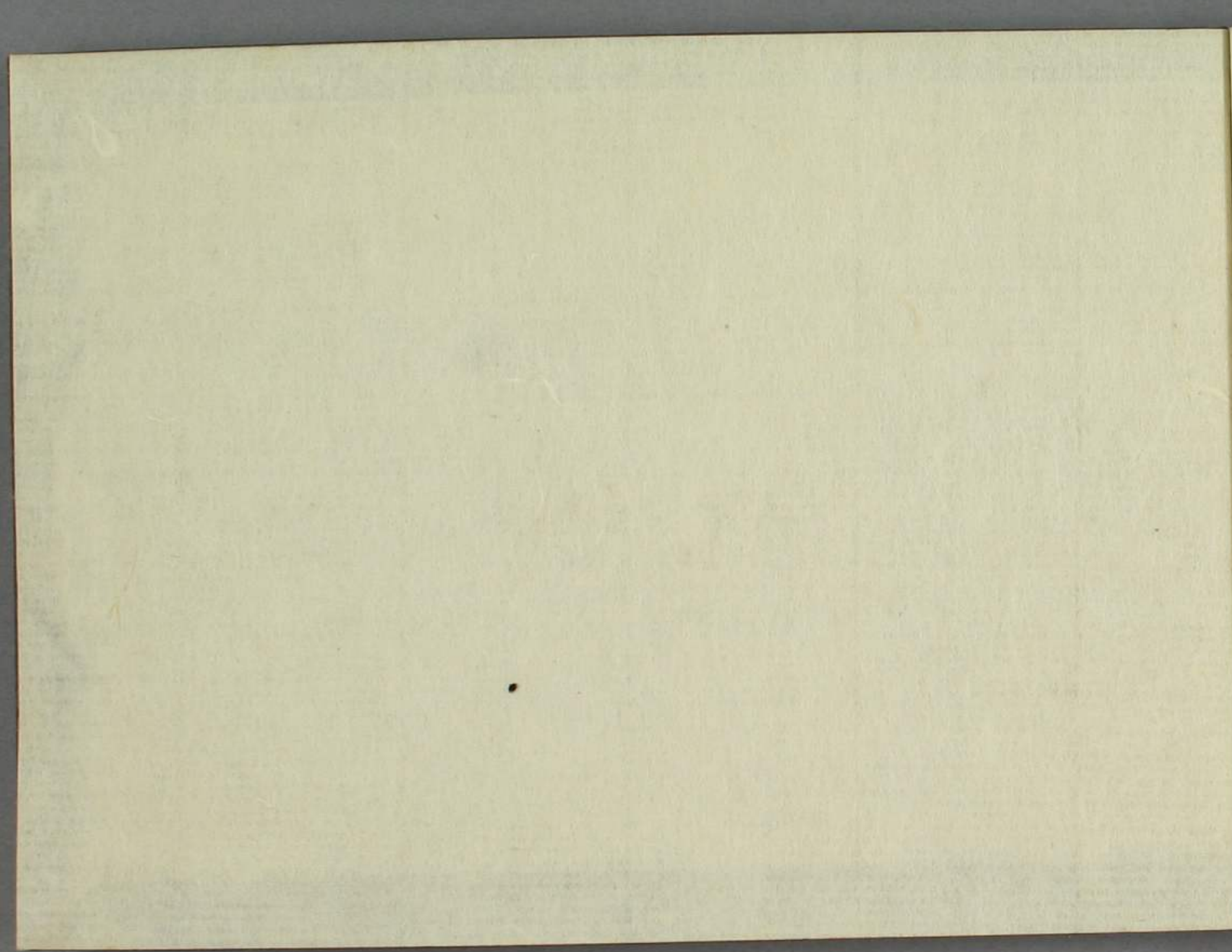
右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

右處也河東之食鹽也其有於海食之於於食八品

柳屋町

八月十日

田中九仲



Handwritten text in a cursive script, likely a historical or scientific record, contained within a rectangular border. The text is written in dark ink and is arranged in several lines. The script is somewhat faded and difficult to read, but appears to be a continuous narrative or list of entries. The page is on the right side of an open book.

